

道徳科 学習指導案（例） *授業づくりをする過程で、外せない項目を挙げています。

令和〇〇年〇〇月〇〇日〇校時
〇 年 〇 組 計 〇〇 名
授業者 〇〇 〇〇

〇学年 年間指導計画 P〇〇 〇月実施

1：主題名「 」 内容項目（例）【友情、信頼】
教材名「 」 出典

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

小学校低・中・高学年・中学校との関連も提示（学習指導要領解説編等から）

* 内容項目については

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P 26～71 参照

中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P 24～69 参照

(2) 児童・生徒の実態

* ねらいとする道徳的価値に関する児童生徒の実態、よさや可能性を記述する。

* 道徳科の時間以外での児童生徒の実態も踏まえ、内容項目のどの道徳的価値に関する指導を重点化するのか記述する。 補充、深化、統合の方向性を明らかにする。

(3) 教材について

* 教材文あらすじ紹介のみで終わらない。教材の特質を生かす具体的な活用方法等。

指導作成上の配慮事項 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P 72～77 参照

中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P 70～75 参照

(4) 指導観

* 「考え、議論する道徳」において児童生徒が「自分事」として捉え、多面的・多角的に考えるための手立てや工夫等を記述する。

学習指導の多様な展開 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P 83～86 参照

中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P 82～85 参照

3 本時の指導

(1) 本時のねらい

*①～（学習活動）～を通して、②（内容項目の具体化）～に気づき（理解し）、
③～（道徳の諸様相）を育てる（育成する）。
のように3部構成で設定すると授業像が明確になる。

(2) めざす児童生徒の実現に向けた工夫改善

*教材提示や発問、ICTの効果的な活用も含めた学び合いの設定の工夫、
書く活動や表現活動、説話の工夫等。多様な考え方を生かす言語活動については
解説道徳編小学校 P93～95 解説道徳編中学校 P93～94

(3) 本時の展開（例）

段階	学習活動 この欄に記述するパターンも← あり	主な発問 □基本 ◎中心 ○補助 ●予想される反応 等	◆指導上の留意点 ◇評価 等
導入	<u>問題に気づく。ねらいとする道徳的価値の自覚に向けた動機付けを図る段階</u>		
展開	<u>教材、他者との対話、自己内対話。他者との関わりで、考え・議論する段階</u>		
終末	<u>道徳的価値に対する考えを基に、これからの思いや課題についてまとめる段階</u>		

(4) 評価

*児童生徒の学習状況を見取る視点を記述する。（◎視点として…）
（多面的・多角的な見方…～について様々な角度から捉えて考えようとしているか）
（自己の生き方・自分自身との関わり…～のよさを感じ自分の生き方に生かそうとしているか）等
～を理解したか、～ができたかを見取るのではない！児童生徒の学習状況を見取ります。

(5) 板書計画

*時系列のみではなく、心情曲線や、ウェビング、矢印や吹き出しなどで、
児童生徒の考えやその変容が表れる構造的な板書を計画する。